

令和元年度 第2回上越市自殺予防対策連携会議次第

日 時：令和2年1月14日（火）

午後2時～4時

会 場：上越文化会館 4階 大会議室

1 開 会

2 挨 拶

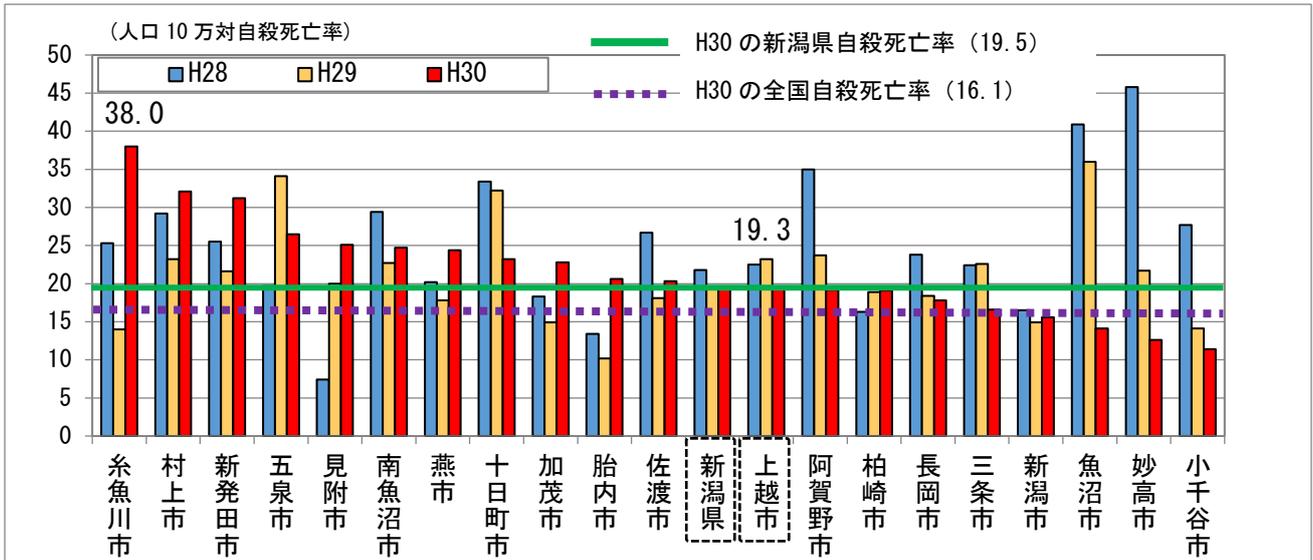
3 議 事

- (1) 上越市の自殺の現状
- (2) 令和元年度の自殺予防対策の取組報告（市・県）
- (3) 関係機関の取組報告
- (4) グループワーク（令和2年度に向けての課題と取組）
- (5) その他

4 閉 会

上越市の自殺の現状

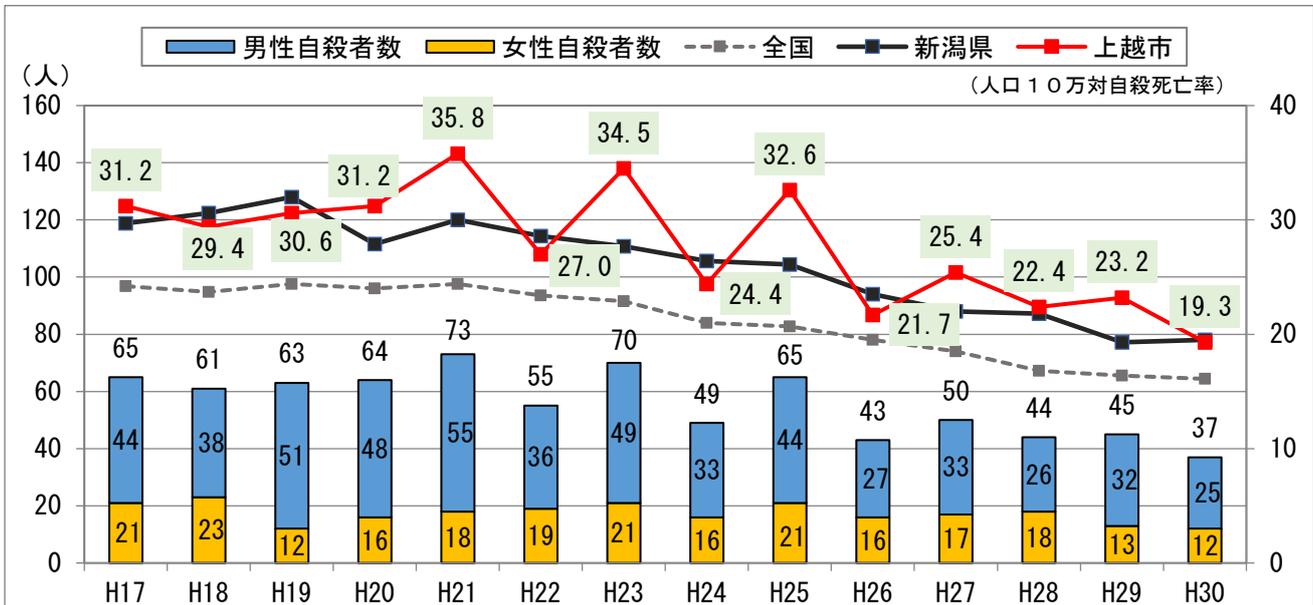
(1) 新潟県、新潟県内 20 市の自殺死亡率



資料：人口動態統計の概要（新潟県）

○平成 29 年の自殺死亡率は、新潟県内で 5 番目 (23.2%) に高かったが、平成 30 年は、12 番目 (19.3) に改善している。過去 3 年間でみると、当市は、新潟県および全国よりも高い状況だったが、平成 30 年は新潟県より低くなっている。(※上記図中の数字は、糸魚川市、上越市の平成 30 年の自殺死亡率。)

(2) 自殺死亡率の推移



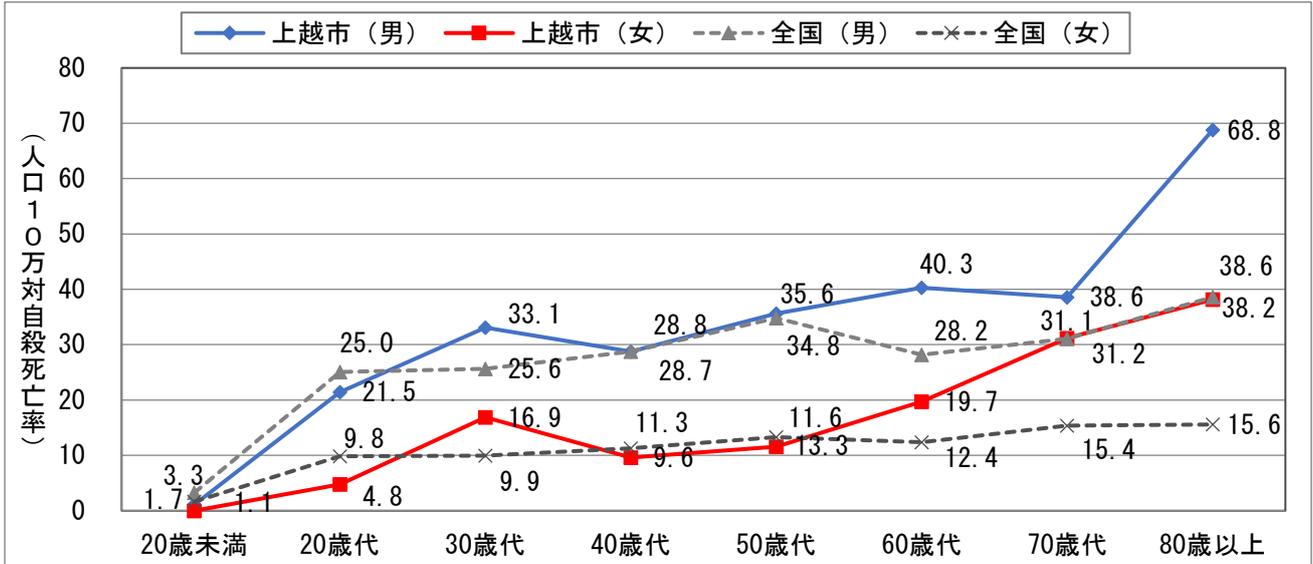
資料：人口動態統計（厚生労働省）

(3) 自殺死亡者数の動向（H31 年 1 月～令和元年 11 月の自殺死亡の状況）

期間	自殺死亡者数		
	男性	女性	全体
H31 年 1 月～令和元年 11 月	19 人	9 人	28 人

資料：地域における自殺の基礎資料（警察庁のデータをもとに厚生労働省が作成）

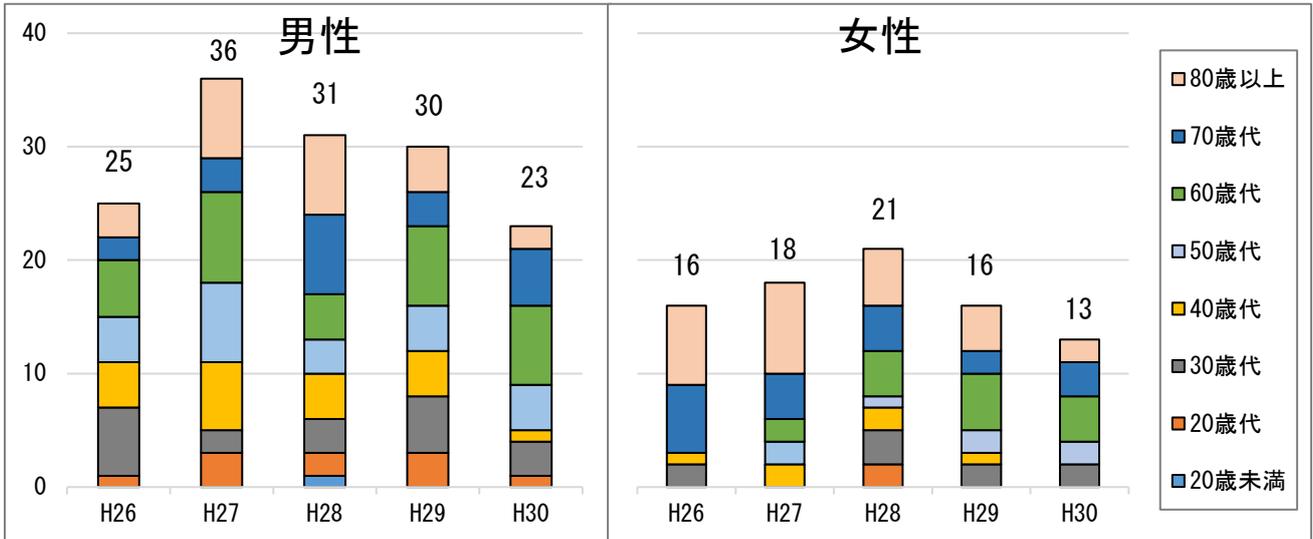
(4) 平成 26 年～30 年の年代・男女別自殺死亡率（上越市・全国）



資料：地域自殺実態プロフィール（自殺総合対策推進センター）

○平成 26 年～30 年の 5 年間に於ける自殺死亡率の状況を見ると、全国と比較して当市は、男女ともに高い傾向にある（30 歳代、60 歳代、70 歳代、80 歳以上）。特に男性は 60 歳代、80 歳以上が高い状況となっている。

(5) 平成 26 年～30 年の年代・男女別自殺死亡者数



資料：地域自殺実態プロフィール（自殺総合対策推進センター）

○50～60 歳代の自殺死亡者数は男女とも横ばいとなっている。近年では、男女とも高齢期の自殺死亡者数は減少傾向にある。（※上記図中の人数は、各年度の男女別合計自殺者数。）

■上越市の自殺の現状（まとめ）

- (1) 自殺死亡者数は平成 25 年以降、減少傾向にある。
- (2) 男性の自殺死亡者数は女性より多い傾向にある。
- (3) 50～60 歳代の自殺死亡者数は男女とも横ばいとなっている。
- (4) 近年では、男女とも高齢期の自殺死亡者数は減少傾向にあるが、全国と比較すると、自殺死亡率は依然として高い状況にある。

令和元年度の自殺予防対策の取組と来年度に向けた課題

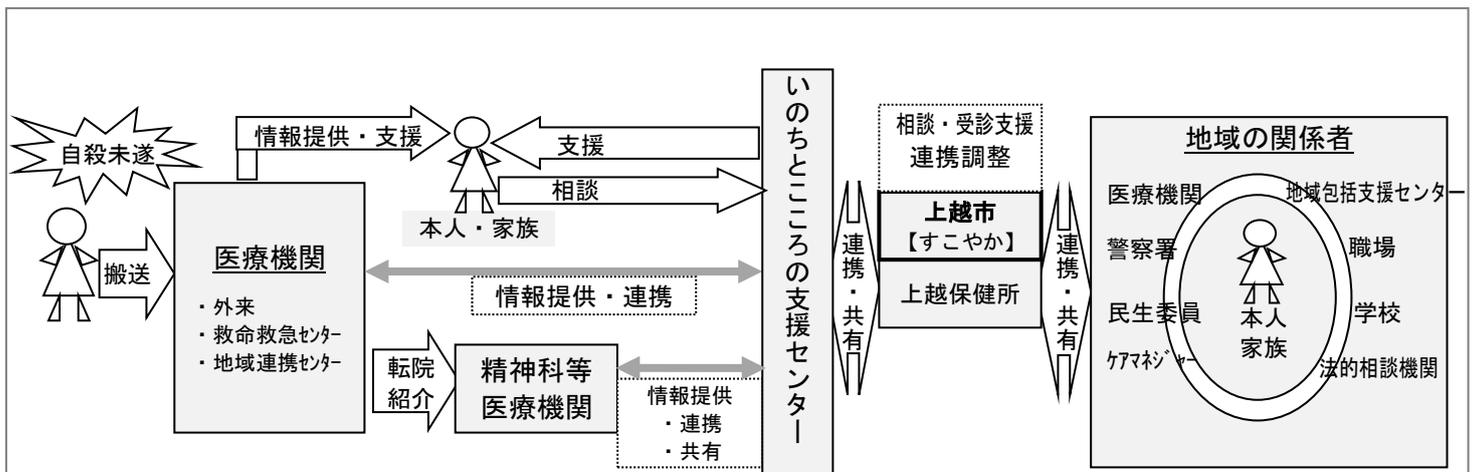


自殺未遂者支援地域連携体制

1. 『自殺未遂者の再企図防止に向けた支援』とは

- ◎自殺未遂者(本人及びその家族)を対象とした、相談支援を実施
 ⇒医療機関からの情報を「上越地域いのちとこころの支援センター」で集約し、上越市(こころの健康サポートセンター)および上越保健所、その他専門相談機関との調整を行い、地域での継続した支援につなげることで自殺の再企図を防ぐ。
 ⇒上越市・上越地域いのちとこころの支援センター・上越保健所・医療機関の連携による、自殺未遂者支援地域支援体制を推進する。

2. 自殺未遂者支援地域連携体制イメージ図



医療機関および行政機関による未遂者再企図防止支援

1. 医療機関が本人・家族へ支援を開始

- ① 医療機関が、本人・家族から「いのちとこころの支援センター」への情報提供の同意を得る。
- ② 本人・家族に相談を促す。
(※緊急時など、場合によっては、医療機関に相談員が出向き相談対応を行う。)

2. 医療機関が「いのちとこころの支援センター」に情報提供

- ① 医療機関が「いのちとこころの支援センター」に情報提供。
- ② 上越市・いのちとこころの支援センター・上越保健所が連携し、適切な相談機関につながるよう支援。(※本人・家族と面談し、問題の解決に向けて相談支援を開始する。)

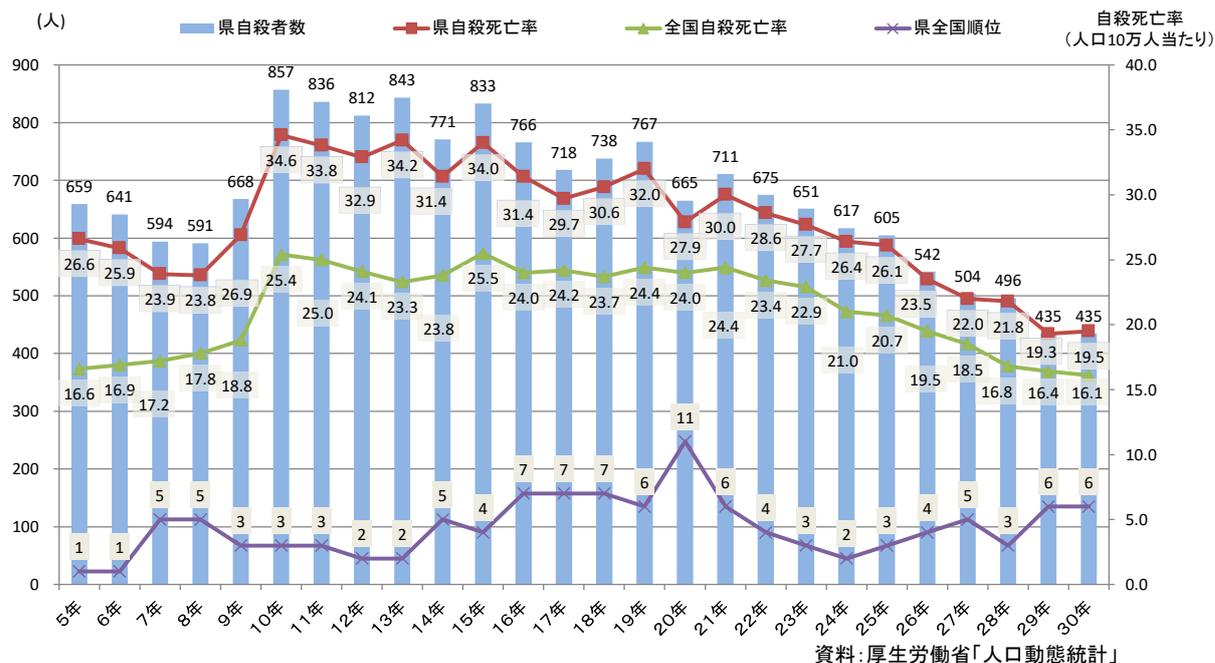
地域における未遂者支援ネットワーク

3. 関係機関連携による個別ケースへの総合支援

- ① 関係者が連携し、本人と家族の意向に沿った支援を実施。
- ② 相談事例について、定期的なケア会議を実施し、支援体制の振り返りを実施。
- ③ 上越市自殺予防対策連携会議において、連携体制の検討などを実施。

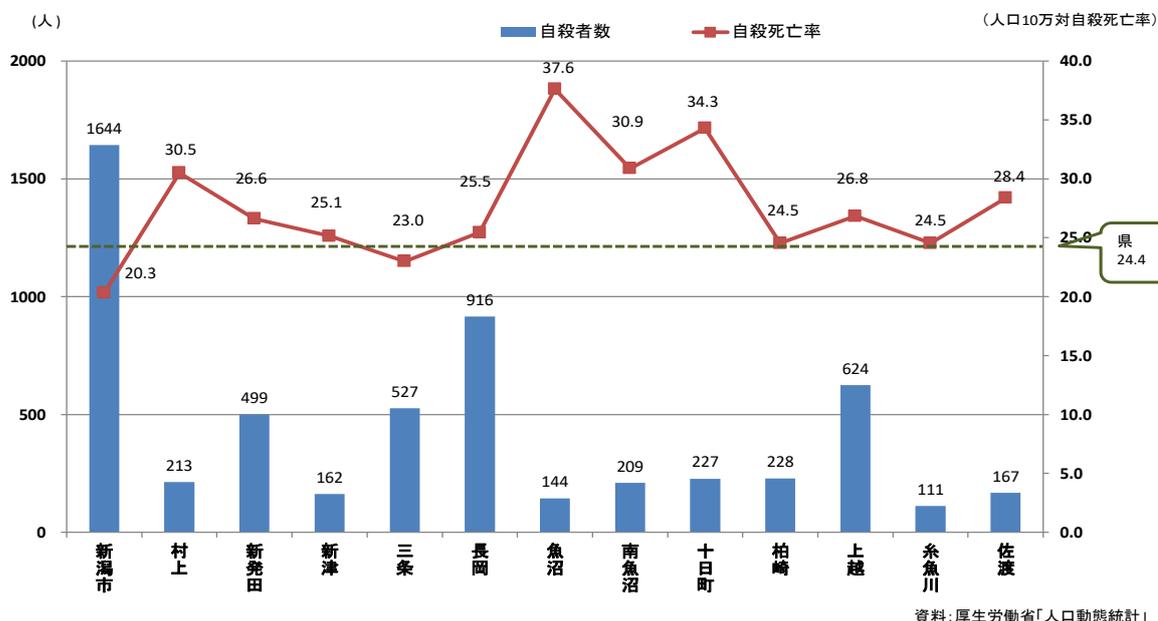
自殺者数・自殺死亡率の推移

- 平成30年の自殺者数は435人と前年と同数であったが、自殺死亡率は19.5と増加した。自殺死亡率は依然として全国上位で推移。



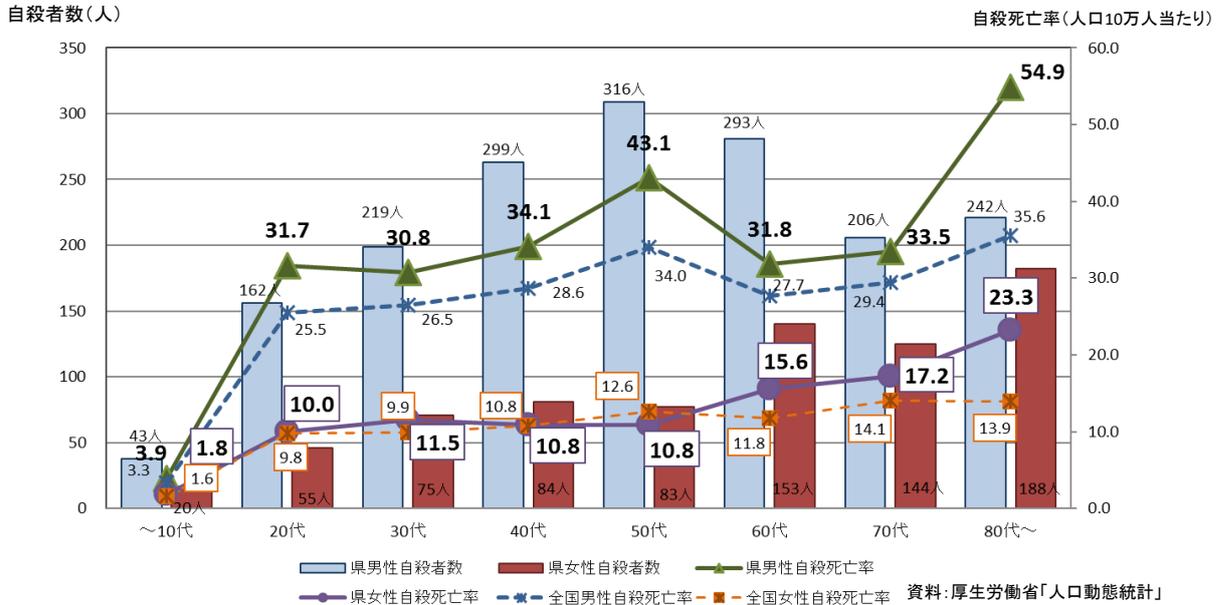
管内別自殺死亡率(H21～H30)

- 保健所管内別の自殺死亡率は、村上、魚沼、南魚沼、十日町で高い。



性別・年齢階級別 自殺者数・自殺死亡率(H26～H30)

- 全体 自殺者数は減少傾向も自殺死亡率は上位で推移。
- 男性 全年代で全国を上回り、20代、40代・50代、80代以上で乖離が大きい。
- 女性 60代以上で全国との乖離が大きい。



新潟県の主な自殺の特徴

(特別集計(自殺日・住居地、H26～30合計))

新潟県

全国

上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺死亡率 (10万対)	上位5区分	自殺者数 5年計	割合	自殺死亡率 (10万対)
1位:男性60歳以上 無職同居	425	16.4%	44.7	1位:男性60歳以上 無職同居	14180	12.6%	31.5
2位:女性60歳以上 無職同居	386	14.9%	23.3	2位:男性40～59歳 有職同居	11603	10.3%	17.9
3位:男性40～59歳 有職同居	331	12.8%	27.4	3位:女性60歳以上 無職同居	10850	9.6%	14.6
4位:男性20～39歳 有職同居	170	6.6%	20.1	4位:男性60歳以上 無職独居	7905	7.0%	92.3
5位:男性60歳以上 無職独居	139	5.4%	108.8	5位:男性20～39歳 有職同居	6922	6.2%	15.7

順位は自殺者数の多さにもとづき、自殺者数が同数の場合は自殺率の高い順とした。(出典:JSSC自殺実態プロフィールより)
 *自殺率の母数(人口)は平成27年国勢調査を元に自殺総合対策推進センターにて推計した。
 **「背景にある主な自殺の危機経路」は自殺実態白書2013(ライフリンク)を参考にした。

新潟県の自殺の実態

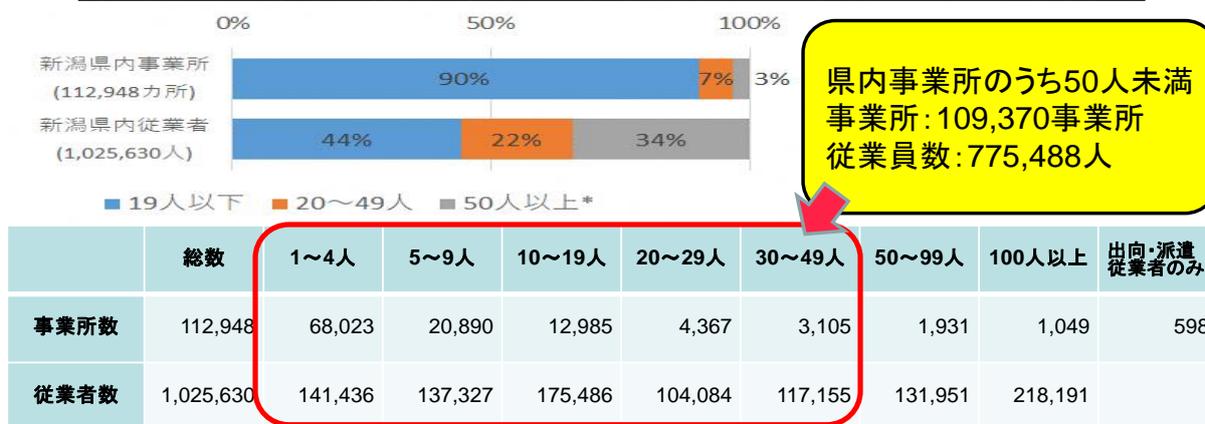
自殺者のうち、有職者の内訳

(自殺日・住居地、H25~29合計)(性・年齢・同居の有無の不詳を除く)

職業	自殺者数	割合	全国割合
自営業・家族従業者	224	22.8%	20.3%
被雇用者・勤め人	759	77.2%	79.7%
合計	983	100.0%	100.0%

出典：警察庁自殺統計原票データを厚生労働省(自殺対策推進室)において特別集計

(参考)地域の事業所規模別事業所／従業者割合(H28経済センサス-基礎調査)



新潟県の自殺の実態

性年齢階級別、職業(8区分)クロス表 (特別集計(自殺日・住居地)(H26~30合計))

性別	年齢階級	職業							不詳
		有職者		無職等					
		自営業・ 家族従業者	被雇用者 ・勤め人	学生	主婦	失業者	年金等	その他 無職	
男性	20歳未満	0	★	35	0	0	0	★	0
	20歳代	★	84	25	0	8	★	31	0
	30歳代	10	135	0	0	14	5	47	★
	40歳代	31	169	0	0	19	13	46	★
	50歳代	46	170	0	0	33	23	50	★
	60歳代	63	56	0	0	5	124	36	★
	70歳代	33	5	0	0	0	171	10	0
	80歳以上	7	★	0	0	0	205	13	0
女性	20歳未満	0	0	17	0	0	0	★	0
	20歳代	0	24	5	★	★	0	15	0
	30歳代	★	36	0	9	★	★	23	★
	40歳代	★	31	0	25	5	6	26	★
	50歳代	★	24	0	37	★	7	17	★
	60歳代	★	18	0	30	0	84	14	0
	70歳代	11	★	0	11	0	134	★	0
	80歳以上	6	0	0	7	0	182	8	0

注：★印については5人未満のため、個人の特定を避ける目的で数字を隠しています。

働き盛り世代の労働者に対し、 自殺の危機経路のどこで関わることができるか

失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→**自殺**

身体疾患→病苦→うつ状態→**自殺**

配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→**自殺**

職場の人間関係/仕事の悩み(ブラック企業)→パワハラ+過労→うつ状態→**自殺**

【労働者】身体疾患+介護疲れ→アルコール依存→うつ状態→**自殺**

【自営業者】事業不振→借金+介護疲れ→うつ状態→**自殺**

(「→」は連鎖を、「+」は問題が新たに加わってきたことを示す)

ライフリンク「自殺実態1000人調査」を改編:NPO法人ライフリンク清水代表の資料より抜粋

できるだけ早い段階から関わる必要がある

若年及び働き盛り世代が相談しやすい体制事業の検討

SNSを活用したLINE相談会の実施

働き盛り世代の課題

- ・相談したくない
- ・弱い部分を見せられない
- ・情報が届いていない現状がある

→電話や面談に比べ**手軽な手段で、匿名性が高いSNS**であれば相談してもらえるか？

SNS相談から、電話や面接などの相談行動に結びつけたい。

相談内容について、「借金、多重債務」や「法律」、「労働トラブル」など、ある程度解決が見込まれ、相談目的が明確となる相談を入り口とした相談会とし、弁護士、司法書士等の専門家を配置した。

SNSを活用したLINE相談会の実施状況

LINE相談実績

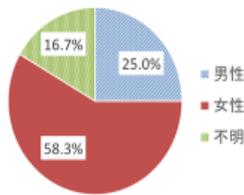
相談実績

相談者 実12人／延15人

相談日別相談者数

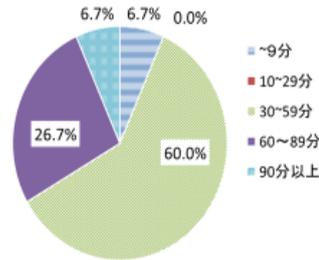
	10月 30日	11月 6日	11月 13日	計
相談者数	2	3	10	15
友だち登録者数	38	48	59	59

相談者の性別(実数)

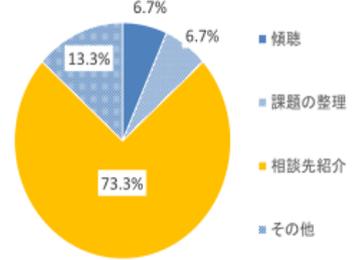


相談対応時間及び対応種別

相談対応時間



相談対応種別



- ・ 相談対応時間は30～59分が60.0%を占めた。
- ・ 対応については相談先紹介が73.3%であった。

SNS相談の効果

< SNSでの相談ニーズ >

- ・ 手軽さ、匿名性等から相談に対する敷居は下がり、ニーズは一定数ある。

< SNS相談の長所 >

- ・ 多職種が関わり、対応等を検討しながら、応対ができる。
- ・ 文字情報として履歴が残るので、アドバイス等を再び本人が振り返ることができる。

< LINEから実際の相談等への移行の可能性 >

- ・ 弁護士等の専門家からの助言が得られるとともに、相談窓口の紹介により、リアルな相談、支援につなぐ効果がある。

SNS相談の課題

< SNS (LINE) の課題 >

- ・ 基本的には、相談をSNSだけで完結させることは難しく、対応の限界がある。
- ・ 主訴が明確でない場合や複合的な課題を抱えた相談などは、対応時間が長くなり、対応の困難度も増す。
- ・ 相談対応者がSNS特有の対応、配慮等についての研修を行うなど体制構築のための課題が多い。

令和元年度
第1回自殺予防対策推進県民会議
個別テーマ検討会

令和元年12月17日(火)開催

・「働き盛り世代の労働者の自殺予防対策」

<話題提供>

・SNSを活用したLINE相談会の実施状況について

<グループでの意見交換>

・テーマⅠ:「ストレスチェックの推進に向けた課題と対策」

・テーマⅡ:「働き盛り世代への相談窓口の周知(情報提供)」

・テーマⅢ:「相談しやすい相談窓口の設定」

【精神保健福祉センターでの自殺対策の取り組み】

○市町村・保健所への技術支援

- ・市町村が実施する「こころのゲートキーパー養成研修会(自殺危機初期介入スキルワークショップ)」に講師として出席。
(令和元年度実績:長岡市、見附市、燕市、魚沼市、佐渡市)
- ・市町村、保健所が実施する自殺対策に関する研修会等に講師や助言者として出席。
- ・自死発生の際のケアの支援

○研修会の開催(予定)

- ・ポストベンション研修会

日程:令和2年3月6日(金)午後1時30分~(予定)

会場:新潟県自治会館

講師:医療法人啓仁会平沢記念病院 診療部長 高橋^{よしとも}祥友先生

講演:「自殺のポストベンション~遺された人々への心のケア」

令和元年度の上越地域振興局健康福祉環境部における 自殺対策事業について(重点事業を中心に)

R2.1.14 上越地域振興局健康福祉環境部

【若年世代】

・高等学校への出前講座の実施

- 管内 4 校計 1001 人 (1 年:338 人、2 年:191 人、3 年:472 人)
うち 3 校は当部・上越地域いのちとこころの支援センター・上越市で実施
1 校については上越市・上越地域いのちとこころの支援センターで実施
- 出前講座実施後にアンケートを実施(高校生の援助希求行動に関する調査)

・上越市中学校長会への出前講座

- 上越市内の中学校長が参加する定例会議・研修会で出前講座を実施
(上越市内の中学校長 24 名が参加)

【働き盛り世代】

・産業看護職のためのメンタルヘルス研修会(10 月 11 日)

- 講義:「職場における発達障害への対応」
- 講師:新潟障害者職業センター主任障害者職業カウンセラー 山田充弘氏
- 参加者:産業看護師、企業人事・労務担当者、行政職員等 35 名

・くらしとこころの総合相談会の開催(11 月 15 日)

- 弁護士・臨床心理士・消費生活相談員・薬剤師・ハローワーク等によるワ
ンストップ型総合相談会
- 働き盛り世代にも対応するため金曜日の 18:00~21:00 で開催
- 相談者 4 名 (20 代、30 代、40 代、60 代各 1 名、男性 3 女性 1)

・企業等への出前講座

- 7 団体 11 回延べ 463 人に実施

【高齢者】

・リーフレット「これからのハツラツ人生のために」の配布

- A3 版二つ折り (4 ページ)。がん検診、特定健診・保健指導・メンタルヘル
ス・相談窓口について情報提供
- 8,000 部作成。うち 7,500 部以上を配布済み。
配布先:商工会議所・商工会、労働基準協会、上越地域職域健康づくり連
絡協議会、上越社会保険協会等の会員企業及び産業保健師・行政等

上越地域の自殺対策の課題と取組の経過

年度	H18~H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1 (事業実施予定)
国や県の主な動き	H18 自殺対策基本法制定 H19 自殺総合対策大綱策定 →県内全保健所で自殺対策事業開始 ・H22~「気づき・つなぎ・見守り隊員」(ゲートキーパー) 養成本格化	自殺総合対策大綱改定 「いのちとこころの支援センター」県内3カ所設置(8月)	県自殺対策推進県民会議設置 県「こころの相談ダイヤル」設置		ストレスチェックの義務化(12月) ・自殺対策事業の交付金化 ・「こころの相談ダイヤル」24時間化	自殺対策基本法の改正 →自殺対策計画策定義務化 ・自殺対策の所管が内閣府から厚労省へ移管 ・新潟県自殺対策計画の策定(3月)	自殺総合対策大綱改定 →「若年者対策の強化」「生きる支援」重点 ・市町村自殺対策計画策定手引き・政策パッケージの提示	市町村自殺対策計画策定推進 上越市: H29年度末策定 妙高市: H30年度策定予定	
上越地域の現状や課題	・特に40~60代男性が多い ・男女共70代以上の高齢者が多い			・40~60代男性の大幅減少 ・自殺ハイリスク者にアルコール問題のある人が目立つ(2割程度)	・高齢者(特に80代以上)の増加 ・救急病院との連携ケースの減少	・80代以上は減少したが、60~70代が減少しない ・20~30代微増	・特に60代が増加、70代は横ばい ・80代以上は大幅減少	全体的な減少(3割程度)	
上越地域の主な取組	・H18 上越圏域の各市・保健所で情報共有会義開催 ・H19 上越地域自殺対策推進協議会設置 ・上越市・妙高市各市での自殺予防関連会議設置	上越地域いのちとこころの支援センターの設置 ・センターによるハイリスク者対策の強化 ・センターと救急外来との連携開始	実態把握と課題の再整理 ・人口動態小票調査 ・上越市各地区担当保健師への自殺の現状聞き取り ・事業所対策の強化	啓発活動強化 ・「啓発部会」設置による住民への啓発強化 ・地域単位での予防活動の開始(上越市30地区活動等)	高齢者対策強化 ・「啓発部会」継続 ・医療福祉従事者向け研修	80歳以上の高齢者対策強化地域に指定 ・「高齢者対策部会」設置 →啓発媒体(チラシ、支援者向け対応マニュアル)作成 「適正飲酒検討会」設置	高齢者対策強化継続 ・「高齢者対策部会」継続 →部会作成啓発媒体を活用した啓発強化 ・上越市自殺対策計画策定 ・街頭キャンペーンの実施	高齢者対策強化継続 ・「高齢者対策部会」継続 →部会作成媒体を活用した啓発強化 ・街頭キャンペーン継続 ・依存症対策と自殺対策の連携	高齢者強化継続 ・「高齢者自殺予防会議(仮称)として継続 ・前年に作成した「これからのハツラツ人生のために」の配布活用 多職種連携の推進 ・「ワンストップ型総合相談会」及び企画会議の開催 ・多職種による事例検討会の開催検討・準備
若年		・高校養護教諭への現状聞き取り	・高校養護教諭との情報交換会の開催(パンフレット作成・検討)	・高校養護教諭との情報交換会の開催(パンフレット作成・配布)				学校への出前講座対応準備	高等学校への出前講座の実施(3校予定)
働き盛り世代	・県内で先駆的に事業所対象のメンタルヘルス研修会を開催		・事業所対象職場復帰支援研修会 ・事業所対象メンタルヘルス出前講座開始	・出前講座の商工会・商工会議所への周知と実施	・出前講座実施増加	・事業所健康管理担当者向けメンタルヘルス研修再開	依存症対策との連携	「アディクションフォーラム上越」の開催 こころの健康づくり講演会の開催	
高齢者	・民生委員への講話	・ケアマネ等への研修			・高齢者事業所向け研修と事例検討会 ・地域ケア会議等での講話		・高齢者自殺予防啓発媒体を活用した予防活動		「これからのハツラツ人生のために」作成配布
ハイリスク者	・一般救急と精神科救急の連携に向けた検討会 ・うつ病患者家族への家族教室	・いのちとこころの支援センターによる個別支援 ・自殺未遂者等家族の集い ・ハイリスク者事例検討会	・自死遺族支援研修(関係機関向け)	・既遂事例振り返り			・遺族支援と遺族への実態聞き取り研修 ・遺族支援実施要領(支援と実態聞き取りマニュアル)の策定		